

日本語教室の親睦会が開かれました 初めてのゆかたで盆踊り。楽しかった一夜

8月22日、京成津田沼駅前広場で行われた「津田沼盆踊り大会」に、NIAの日本語学習者と日本語ボランティアが参加しました。

これは日本語教室部会の親睦会で、参加者は学習者とその家族・友人27名、ボランティア30名、さらに着付けや踊りの指導に地域の方々も多数加わっていただきました。

夕刻、いつもは日本語学習をする6階会議室に三々五々集合。学習者たちはボランティアが用意したゆかたを次々に着せてもらいます。そして輪になって盆踊りの練習。曲に合わせて地域の踊りの名手たちの後に続き、笑顔ながらも真剣です。用意された飲食物で軽く腹ごしらえ。おしゃべりや記念撮影の後、6時半、いよいよ会場へ向かいます。

広場には、盆踊りの曲が大きく流れ、中心には紅白の垂幕で飾られた大きなやぐら。広場いっぱい提灯が吊り下げられ、やぐらの周りを人々がグルグルと輪になって踊っています。すでに盛り上がっている輪の中へ、「こんばんは～」と、学習者もボランティアも元気よく合流。色とりどりのゆかたを着込んだインド、フィリピン、ドイツなど、国際色豊かな一団の参加で周囲はパッと花が咲いたよう。盆踊りも一段と盛り上がった様子です。「すごく楽しかったです！ 皆さんと一緒にダンスをしたり、着物も着せてもらえましたし」と汗をぬぐうのはショハナ・パルビンさん（バングラデシュ）。

ゴウ・ジンさんは中国から2月に来日。かたわらのご主人が、「まだ、あまりしゃべれないので僕が。初めてゆかたを着て嬉しかった、と言っています(笑)」とやさしく代弁します。

ヘレン林田さん（ブラジル）は、「小さな子供から大人、年とった人まで、みんなが一緒に仲よく踊ったのが、すばらしいと思いました。本当の日本を知ることができた、という

感じですよ！」と話します。

数少ない男性参加者で、ゆかた姿もいなせなマキシム・アンドリゲットさん（フランス）は、「ゆかたも盆踊りも初めて。踊るのは、最初は恥ずかしかったけれど、いざみんなで踊ったら楽しかったです」と笑います。

姉妹都市タスカルーサから8月初旬に来日したばかりのALT（外国語指導助手）のシアラ・デューターさんも、「盆踊りは初めて。日本に来てすぐにこんな楽しい体験ができて、嬉しいです」とニコリ。

踊りを指導してくださった女性も、「あんな（会議室での）短い練習で少し心配でしたが、本番になったら、皆さん、スーッと自然に輪の中にとけこんで上手に踊っていて、驚きました。さすがです」と目を細めます。

「普段は、クラスの違う学習者やボランティアは、なかなか交流の機会をもてませんが、こういう何かを一緒に体験する催しを通して、お互いはもちろん、地域の方々とも親睦がはかられれば、本当によいと思います」（日本語部会部会長・渡部一之さん）。

ゆかたが素敵に似合っていた学習者たち。みんなで踊って、地域の人々ともふれあい、楽しいニッポンの一夜となりました。参加した日本語ボランティア、とりわけ親睦会担当幹事の皆さん、お疲れさまでした。

（報告 佐藤洋子／日本語教室部会）



出発前に参加者全員で記念撮影